

小学生クラス（低学年）における文字指導の試み

ーカタカナ絵単語を使ってー

和田 玉己

目次

1. センターの小学生クラスの文字指導
 - 1) 現状
 - 2) 問題点
2. 絵単語を使って実施したカタカナ指導の試み
 - 1) カタカナ絵単語教材（仕様と語彙の選択）
 - 2) 4ヵ月の流れ
 - 3) 指導の流れ
 - 4) 実践例
 - 4)－1 対象者
 - 4)－2 実施時期
 - 4)－3 実施経緯
 - 4)－4 指導の具体例
 - 4)－5 テスト結果
3. 考察
4. 今後の課題

1. センターの小学生クラスの文字指導

1) 現状

センターでは学習者のタイプ別にカリキュラム開発を行っており、学習目標を構造化している。小学校編入が予定される児童のクラス、（以下「小学生クラス」）対象の構造表は、次の3つの目標を柱にしてある。

中目標1. 学校生活、日常生活に必要な基礎知識・基礎技能を身に付ける

中目標2. 学習活動に必要な基礎知識と基礎技能を身に付ける

中目標3. 小学校生活及び学習活動の基礎となるコミュニケーション力を身に付ける

図 1

＜タイプ別目標構造表（小学生タイプver.1）＞

中目標1：学校生活、日常生活に必要な基礎知識・基礎技能を身に付ける

小目標	達成目標	リスト
1) 「模擬学校」としてのセンターでの生活に必要な基本的習慣を身に付ける	①日直の仕事がわかり実行できる	◇教室内外の整備（チョーク、その他の備品、掃除）、教師との連絡、昼食関係（食券、配膳、後片づけ）、学級日誌の管理、号令、衛生検査
	②センターの規則とマナーを守って行動できる	◇遅刻・欠席早退の届、時間、飲食の禁止、内履き外履きの区別、保健室の利用、身分証の携帯、教材や物品の貸し出しと管理、公共物の利用、衛生（ごみ処理等）、集団下校【低のみ】 ◇トイレの利用、事務室の入退室、毎日の挨拶、返事、お弁当の食べ方
	③小学生クラスのきまりと同級生間のマナーを守って行動できる【高のみ】	◇禁煙、化粧・装身具の禁止、団体行動、問題発生時の対応（謝る等） ◇物の貸し借り、お礼、謝罪、挨拶
	④保護者に連絡ができる（通知の内容に留意し、必要があれば説明ができる【高のみ】）	◇授業参観・三者面談・家庭訪問・社会科見学・写生大会等のお知らせ、連絡帳、弁当等持ち物の準備
	⑤衛生に関わる基本的な生活習慣を身に付ける	◇歯磨き、入浴（洗髪）、手洗い、下着、爪、ハンカチ、ちりがみ
	⑥教師の指示をきちんと守ることを通して、学習活動の前提となる学習態度、学習習慣を身に付ける	◇返事、授業に必要な教材や教具を学校に持ってくる、時間割の見方、予習と復習（テストの準備など）、宿題、机の上に必要なものをそろえる、班作業に協力できる、連絡帳ノートをとる、プリント整理、テストの受け方
2) 日本の小学校生活のイメージを持つ	①小学校・小学生事情／日本の小学校生活について知る	◇小学校の一年（三学期制・行事）、小学校の一日（一日の流れ）、小学生の遊び、友達間のマナー（物の貸借り）、学校施設（図書室、体育館、プール、理科室、音楽室、保健室）、年賀状、学校制度【高のみ】
	②行事／学校行事を体験する	◇授業参観・三者面談・家庭訪問・社会科見学・写生大会、七夕・クリスマス等季節の行事、レクリエーション活動（ブルートバスケット等）
3) 学校外の生活行動場面に必要な知識と技能を身に付ける※	①交通ルール／交通ルールや注意事項を守って安全に登下校ができる	◇車は左人は右、信号、道路・踏切の横断、自動車の内輪差、危険行為
	②交通／教師の引率の元、安全に注意して、目的地まで電車やバスを利用して行ける	
	③買い物／教師の引率の元、商店の種類を知り、買い物の際のマナーに気をつけて買い物ができる	
	④通信／郵便局や電話利用に必要な知識を身に付け、利用できる	◇小学校生活、また学校外の生活における郵便や電話の役割（学校との連絡、緊急時）、はかきの出し方、電話機の種類と使い方、電話のマナー（含：間違い電話） ◇はかき出し、家にきた電話の取り継ぎ、実習におけるセンターへの現在地の報告・緊急時の連絡、相手の名前や電話番号の記録【高のみ】
	⑤訪問／友達の家を訪問する際の基本的なマナーを身に付ける	◇和室でのマナー（靴の揃え方、お茶の飲み方）、食べ物への断り方、挨拶（こんにちは、いただきます、ご馳走様等）

※低学年の場合中目標の3) ①②③④は、中目標2の1) ⑥生活科における基礎知識と基礎技能にもなっている

中目標2：学習活動に必要な基礎知識・基礎技能を身に付ける

小目標	達成目標	リスト
1) 日本の小学校の教科内容についての基礎知識と基礎技能を身に付け、教科の活動とそれに伴う受け答えに親しむ	①技能教科／中国では馴染みのなかった 技能教科の活動 に親しむ	◇【音楽】ハ長の五線譜、ソプラノリコーダー【低不要】、ピアノ、日本の歌【体育】着替え、整列、ラジオ体操、体力測定、ドッジボール【図工】水彩絵の具、【家庭科】弁当調理、裁縫【高のみ】
	②算数／算数に必要な 用語や用具の使い方 を知るとともに、『 文型算数 』の文章題に慣れる	◇数字、記号符号、単位、図形名称などの読み方、時計の読み方【低のみ】 ◇コンパス、分度器、定規を用いての作図
	③国語科／原稿用紙や毛筆の 使い方 を知るとともに、簡単な漢字仮名まじり文を題材とした、 国語科の活動 に慣れる	◇音読する、口答による簡単な内容の確認、簡単な読解問題に答える
	④社会／主に 日本を中心とした簡単な地理の知識 を身に付ける【低不要】	◇平面図、地図記号、地図帳の索引、白地図の作業、日本の地形、県名と特産物、中国と日本の位置
	⑤理科／ 理科の活動形態 に慣れる【低不要】	◇自然観察、観察記録（温度計）、図表作成、実験（磁石、電池、豆電球）
	⑥生活科／ 日本における身近な社会や自然のことがらに関心を持ち、生活科の活動 に慣れ親しむ【低のみ】	◇家族の仕事、家の手伝い、センターの回り（駅、郵便局、商店街） ◇見学、自然観察と記録、簡単な実験（触ってみよう、ならしてみよう等）、絵地図の見方
	⑦回復・維持／中国での学年相当の算数の力を回復または維持する※	
	⑧ 文房具 の使い方に慣れる	◇はさみ、糊、ホッチキス、カッター、パンチ
	⑨テスト／テストやワークブックの形式や問題の指示に慣れる	
	⑩ グループ活動／学習活動としてのグループ活動 に親しむ【低不要】	◇計画に従って責任を果たす、発表する
2) 学習活動に積極的にとりくむために必要な技能を身に付ける	①質問／わからないところを教師や同級生にきくことができる	
	②整理／教師の指示に従ってノートをとったり、プリントを整理したり、単語帳を作ったりすることができる、それを使って自分で復習できる	
	③辞書／辞書の有用性を知り、 辞書で引ける形であれば わからない言葉を調べることができる【高のみ】	◇日漢辞典、漢字辞典 ◇辞書で引ける形を示される、辞書で引ける形を尋ねる

※⑦について：回復・維持に加えて、編入されるであろう学年の算数の学力に対し隔たりが大きい場合、できれば学力の一部を補充する（例：分数、小数、面積）

備考：【低のみ】低学年のみ学習項目として扱う
【低不要】中高学年のみ学習項目として扱う
【高のみ】高学年のみ学習項目として扱う／

中目標3：小学校生活及び学習活動の基礎となるコミュニケーション力を身に付ける

小目標	達成目標	リスト
1) 学校生活や学習活動の基礎となる日本語力を身に付ける	①文字／平仮名、片仮名、日常よく使われる漢字の読み書きができる ②文型表現／基本的な語彙や表現の意味を知り、使える	◇50音図の仕組み、仮名表記の語の音読、漢字仮名混じり文の音読、『小学生の漢字』の読み書き ◇『基礎単語表』『基本文型・表現表』(Qレベル) ◇口答による簡単なやりとり、単文・短文の読解と単文・短文の作文(Qレベル)
2) 教師や同級生と良好な関係を作るために、必要なコミュニケーション力を身に付ける	①コミ・マナー／場面に応じて、適切にコミュニケーションすることができる ②話題／自分に身近な話題でコミュニケーションができるとともに、中国のことについて日本の子に紹介することができる	◇言いたいことが言えないときの対応(わからないとき にわからないまたは教えてと言える)、 目上の人に対する対応、返事、相槌、挨拶、お礼、謝罪、断わり、申し出 ◇簡単な自己紹介、家族、故郷、中国での生活、中国の学校、中国の遊び、好きなこと、したいこと、食べ物、中国の行事、中国で楽しかったこと、中国語のこと

センターの小学生クラスの文字指導(平仮名、片仮名、漢字)は目標構造表でいえば中目標3の中の小目標1)「学校生活や学習活動の基礎となる日本語力を身に付ける」に位置付けられている。また、文字指導のプログラムを研修期間(実質13週間¹⁾)全体の流れの中におくと次のプログラム配置図で示されるようになる。(図2)

小学生クラスの場合、1時限は45分授業である。45分は、15分～20分程度の「毎時の練習」²⁾と、20～25分の本活動とで構成されている。文字(平仮名、片仮名)の指導法はおおよそ以下の通りであった。

- ①行別に単音導入 判別練習、発話練習、[単音カード、または学習者が各自使える小な単音チップ使用]
- ②字形筆順練習[「ひらがな練習帳2」使用]
- ③習った行だけで読める単語を読んでみる[「ひらがな練習帳1」使用]
- ④その日の残り2コマと翌日の1～2コマに単音の聞き書きを加え、「毎時の練習」として復習する

片仮名の指導法も同様であった。

図2

小学生クラス プログラム配置案

期	前 期					中 期				後 期			
週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
中 目 標 1	セ ン タ ー の 生 活	日 直 の 仕 事											
		交 通 安 全											
		観望①	行事①	施設見学②③		備①	行事③	行事④		備②	備③		
		小学校	機関	駅・商店・郵便局		遠足	道	鑑		備④	備⑤		
		日 常 生 活 （ 駅 ・ 買 い 物 ・ 郵 便 局 ・ 電 話 ）											
中 目 標 2	算 数					国 語							
						文 型 算 数 （ 文 章 題 ）							
	理 科					社 会 科							
						体 育							
	音 楽												
	図 工												
	家 庭 科												
	中 目 標 3	平 仮 名	片 仮 名										
文 字						漢 字							
語 彙						表 現							
					辞 書								
話 題 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ マ ナ ー													
週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週

2) 問題点

平仮名文字指導では50音体系を身に付けることを目標としている。しかし、平仮名で50音体系をようやく身に付けても、片仮名を行別に指導していくころになると、特に、低学年の場合、13週の集中した研修期間中に、学習許容量を超えてしまうことが問題になっていた。

日本の小学校では、一般に小学1年次の1年間をかけてゆっくり平仮名と片仮名を学習する。1年の前期で平仮名と数個の片仮名そして30字程度の漢字を学習し、後期で片仮名を終え、1年次の学年配当漢字の残り50字程度を学習する。

センターの小学生クラスでは、定着先の小学校における子供の負担を少しでも軽くするために、平仮名、片仮名、1年生の漢字の読み書きは必須である。（中高学年の子供はこれに加えて可能な限り学習漢字を進めていく。）日本の子供が1年かけて学習することを13週間で消化させていることになる。

低学年の子供の場合、平仮名に加えて片仮名も単に50音順に行別に指導を進めていくと大抵「た行」位から覚えきれなくなってしまう。低学年の子供に限らず、文字が苦手な子供やクラスの授業から遅れてしまう子供は每期必ず1人～2人見られる。無意味な単音は記憶に残りにくい。しかし、一般的にすでに行われていることでもあるが、単語を語彙として覚えながら語頭の文字と結び付けて、文字を50音順に入れる指導法で学習すると記憶に残りやすい。この方法で平仮名を指導したときに、単語を丸覚えした結果、語頭以外の未習の文字も自然に習得していることがあった。特に低学年は、単語を瞬時に丸ごと覚えたり、判別したりする能力も持っているのではないだろうか。

そこで「カタカナ絵単語カード」を使って単語とその単語を構成する片仮名文字を単語ごと丸ごと覚える試みを実施した。なお、「絵単語カード」とは表に絵、裏にその単語が書いてあるものである。

2. 絵単語を使って実施したカタカナ指導の試み

1) カタカナ絵単語教材（仕様と語彙の選択）

語彙の選択

語彙としては、子供が好きそうで、楽しく覚えられるもの、身近にあるもので鮮明にイメージできるもの、文字を丸ごと記憶することを考慮してなるべく拍数のすくないものを選択した。1度に導入する語彙数は4～5つでシソーラスになるようにした。

- 例 ①動物 ライオン ゴリラ パンダ キリン カンガルー
②動物 ペンギン コアラ ラクダ カバ ゾウ
③食べ物 ハム パン （アイスクリーム） ジュース
④食べ物 ケーキ トマト バナナ メロン
⑤身の回り ラジオ カメラ テレビ ノート タオル
⑥遊び シーソー ヨーヨー ボール サッカー
⑦乗り物 タイヤ カヌー ट्रラック バス バイク

50音体系との対応

これらの絵単語は、事前に選んだのではなく、日々試行錯誤しながら選んだものである。個々の語彙そして全体のバランスは十分に吟味されていない。（例えば絵単語⑤のノート、タオル、カメラに関しては、教師がこれぐらいの語彙は覚えてほしいという気持ちがあって選んだものであるし、絵単語⑦のタイヤ、カヌーに関しては、語彙としての重要性よりも50音なるべく網羅できるように、「ヤ」や「ヌ」が入った単語として選んだ。

この32単語の中の単音で50音がどの程度網羅できるかは以下の図の通りである。

図3

ン		ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
	リ							シ	キ	イ
	ル	(ユ)	ム			ヌ	(ツ)	ス	ク	ウ
	レ		メ			テ		ケ		
	ロ	ヨ				ノ	ト	ソ	コ	オ

五十音図表

パ	バ
	ビ
ペ	
	ボ

ダ		ガ
	ジ	ギ
	ゾ	ゴ

氏名（

ジュ

語彙を導入していった結果、50音図の早く埋まった行から、足りない半音を補い行別にまとめ直していく。

2) 4か月の流れ（プログラム配置図文字及び学科指導部分参考）

- 1～ 3週 平仮名 清音
- 4～ 6週 平仮名 濁音、その他特殊音
- 7～ 9週 片仮名 清音他（絵単語と単語の文字丸覚え方式）
- 10～12週 片仮名 濁音特殊音
- 7～13週 小学1年生の漢字～
- 6～13週 国語、「文型算数」（文章題）で漢字仮名混じり文に慣れる。

3) 指導の流れ

①語彙の導入

例えば、片仮名絵単語①（動物5枚）を使うときは鳴き声を出したり体を動かしたりして動物の物まねをして遊ばせながら語彙を導入する。カードは素早く繰り、絵や文字の映像を子供の目に焼き付けるつもりで一瞬みせる。高学年になると動物の動作化を恥ずかしがる子もいるのでゲームとして行うとよい。低学年の場合は促さなくても絵を見ただけで動作化する子供が多いので、おおよそこの手順でできる。

② 文字の導入

絵単語カードと単音カードを使って、単語と絵のマッチングや語頭の文字と絵のマッチングをすることによって文字の照合をする。語頭の文字とそれ以外の文字の判別練習をする。次に書き方シートを使って、語頭の文字のみまたは単語を丸ごとシートに書く練習をする。〔資料1〕
単音の発話練習をするとき、未定着の文字は絵単語のどの部分にあるか確認する。

③ ゲームによる復習

単語再構成ゲーム、間違い探しゲーム等（後述）

④ 行別のまとめ

どの文字を学習したかを常に50音図でいっしょに確認する。例えば、片仮名絵単語①と②の10単語でア、カ、ラ行がほぼ埋まる。1行の文字を3つか4つ学習したのち、あとどの文字が足りないかを考えさせて、行別にもまとめていく。絵単語③のジュースの「ジュ」を取り出して、拗音シャジャ行をついでにまとめる等他の絵単語も同様に行う。

4) 実践例

以下は新しい方法として絵単語を使って小学生クラスに片仮名指導を試みた実践例である。

4) - 1 対象者

44期 小学生低学年クラス（Pクラス）3名

学習者S 男子6歳 中国では読み書きと計算を教える幼稚園に一ヵ月行った。

学習者O 女子8歳 中国では1年生を修了したばかりだった

学習者A 男子7歳 中国では1年生を修了したばかりだった

4) - 2 実施時期

研修期間（平成6年10月12日～平成7年1月26日）のうちの実質3週間

4) - 3 実施経緯

3人のうちAは、平仮名を一通り学習し終えた第10週でまだ平仮名が定着しておらず簡単な平仮名のみで表記された短文の読みにも遅れが見られた。続けて片仮名を導入すると混乱させる思い、先に1年生の漢字を学習しながら平仮名を定着させることを考えた。Sは父親に教えてもらいながら、すでに片仮名50音図がほぼ書ける状態であった。こうした状況で片仮名を行別に導入すると、ますますAとSの差がつくことが予想された。そこで、片仮名絵単語を使って文字を丸ごと覚え50音図を網羅していく方法で導入することにした。

4) - 4 指導の具体例

実施手順はほぼ前述の通りであるので、ここではゲームによる復習、文字指導と他の学習との関連、および宿題について補足する。

ゲームによる復習

①ものまねゲーム（動物、食べ物、乗り物語彙）

単語と文字を一瞬同時に見て、ものまねをする。単語が定着してきたら文字のみを見せ、読めないと動作化して遊べない、読めたら食べるまねをしていい等のルールを作って遊びながら復習させる。

②マッチングゲーム

語頭の文字カードと絵カードをマッチングさせる。絵カードを裏にし文字

と照合させる。又は単語と絵カードをマッチングさせる。照合のとき語頭以外の文字やその単語は何文字あるかも意識させる。

③単語再構成ゲーム

単語を構成している文字の単音カードをばらばらに示し、正しい順序に並び変えて単語作りをする。

④間違い探しゲーム

文字の順序を変えたり、不要な文字を入れて子供に訂正させる。1枚文字を抜いて、どこに何の文字が足りないか黒板に書かせてもよい。

他の学習との関連

平仮名学習中も食べ物語彙を集めて学習し、味覚、色、形の語彙を使った会話や調理実習（生活科／家庭科）、貝割れ大根を育てて食べてみる（生活科／理科）、写生実習（図工）を組み合わせるようにしていた。片仮名絵単語での『食べ物』を学習するころも、「食いたい、のみたい、欲しい」の語彙を使ったやり取りもして、常に五感を刺激して学習するようにした。

宿題

学習の段階に応じて宿題を出す。

- ・テープ聞き書き [資料2]
- ・絵と文字のマッチングおよび片仮名单語を書くシート [資料3]
- ・片仮名と平仮名の単音マッチングシート [資料4]
- ・テープ聞き書き 行別単音 [資料5]

4)－5 テスト結果

片仮名に関する修了テストは以下の通りである。

- ・絵と単語を線で結ぶマッチングテスト
- ・50音図穴埋めテスト
- ・口頭テスト（カタカナ表記の単語を読み、中国語で意味を言ったり動作で

伝えたりする)

- ・音読テスト（片仮名单語を含んだ簡単な読み慣れている文を音読する）

図4

	①マッチング	②50音図穴埋め	③ 口頭	④ 音読
S男	◎	◎	◎	◎
O女	◎	－3	－2	◎
A男	△	－7	－4	◎

テスト①については、S、Oの2人は満点であった。Aは主に乗り物、遊びの単語（カヌー、タイヤ、シーソー、サッカー、タオル）について混乱が見られた。

テスト②については、Sは満点、Oは3つ、Aは7つ書けなかった。いずれもタナハ行の文字が未定着であった。片仮名絵単語でカバーできた片仮名は50音図の中盤の文字が少なく、文字のみで導入しなければならない。（図3参照） 行別でまとめたときの負担が他の行に比べて大きかったのが原因であろう。

テスト③については、Sは満点、Oもサッカーとシーソーの意味を言い間違えたのみ、Aはタオルが読めるが意味が言えなかったり、カヌーのヌが思い出せず意味が言えなかったり、シーソーと読めないが意味は言えたりした。ほかには、サッカーの促音がシカツかわからなくなり意味も言えなくなった。この場合「カ」を先に読むように促したら思い出すことができた。

テスト④については、「毎時の練習」で暗記するほど練習してたので3人ともすらすら音読できた。ここに出てくる片仮名は絵単語以外の果物単語でリンゴ、ミカン、モモ、ブドウ、イチゴ、スイカを含んでいる。

テスト結果だけ見るとAは定着が悪いが、授業中はほとんど差がなくむしろ単語を見て意味を言ったり動作をする反応は一番速かった。ただ平仮名学習

中から文字と音との1対1の対応を苦手としていた。

単語と文字の関連について

テスト①②③の結果より、覚えている単語数が多ければ多いほど記憶している文字数も多いという結果が得られた。

3. 考察

語彙の定着

一番人気のあった語彙は『動物』と『食べ物』で定着率も良かった。また、拍数が少ないものが覚えやすいかということ必ずしもそうではなくカンガルー、アイスクリームの文字も覚えがよかったようだ。例えば、アイスクリームが好きな語彙であり、語頭の「アイ」が50音図の始まりと同じなので。印象が強かったのかもしれない。授業中の感触として伝わってくるのは、実際見たことはなくても、子供の心のなかに具体的にイメージがあれば覚えやすいということである。子供はカンガルーのことをよく知らないのだが、絵カードの絵を見ただけで母カンガルーの袋に子カンガルーが入っていて一緒にピョンピョン飛ぶ動作をする。一方コアラは写真を見せてもイメージできず、字を見てカンガルーと言ったり、似た文字で構成されている単語で動物のイメージとしてよりインパクトの強いゴリラを言ってしまうことがあった。メロンは44期の子供は食べたことがなかったので印象が薄く定着もほかの食べ物と比べて良くなかった。ほかにはラジオは知っているがテレビほど興味がない単語だったようで定着の良くない単語のひとつであった。

文字の定着

片仮名は平仮名より字形が単純であり、平仮名から類推できる似た文字があることから、単語全体として視覚に残りやすいようだ。1字1字質問したわけではないのだが形が好きな字、覚えやすい字、印象に残りやすい字があるのかもしれない。ハムのハより先にムを読み、単語を思い出してハを思い

出すという子供もいた。最初に単語として覚えたアイスクリームが好きで語尾の「ム」をよく覚えていたからかもしれない。

定着が進んだ理由として考えられること

単語と文字を丸ごと覚える方法で指導した結果、平仮名学習より短期間で片仮名の清音を導入することができた。これには以下の理由が考えられる。

- ・片仮名の文字を文字だけで導入しなかったので、絵と同じ感覚で飽和状態の頭にも受け入れられたのではないかということ
- ・片仮名の字形が平仮名に比べて視覚的に記憶しやすかったこと
- ・平仮名で50音の体系がすでに定着していたので、絵としての片仮名から文字としての片仮名に移行する段階で、加速度的に行別でまとめられたこと
- ・漢字学習で筆順を厳しく指導していたので、片仮名の筆順指導にはあまり手がかからなかったこと
- ・感情移入³⁾しやすい語彙と動作化しやすい語彙を選んだので記憶の補助となったこと
- ・好きな単語であれば飽きずに復習ができること

大人の文字指導と大きく異なる点は、好きな単語であれば長い単語であれ、特殊音が入った表記の難しい単語であれ、単語を丸ごと覚えられる点である。

4. 今後の課題

留意点としては子供の社会性や好みを反映した語彙（食べ物、身の回りのもの、遊び等）を選択する必要がある。子供に人気がある動物絵単語で50音図がほとんど網羅できるような単語を選んだり、動物だけでは飽きてしまうかもしれないので食べ物と半々になるように選ぶことも考えられる。

長音、促音、拗音を含む語彙について、これを絵単語の中を含めるかどうかという点については、現時点では好きな単語であれば含めてもよいという感触をもっている。これまでの指導では、導入時は単語を覚えることに重点を置き、発音を厳密には矯正していなかった。単語としてそれらしく聞こえ

ればいいということにしていたので、一つ一つの音の正確さに欠けることがあった。以上の反省点から、絵単語の中に長音、促音、拗音を含む語彙を入れるのであれば、学習した単音の文字と音の対応を丁寧に指導する必要があるだろうと考える。

注

1) 研修期間の16週間のうち第1週間は宿泊棟における生活指導やプレイスメントテストで日本語の授業がないこと、研修期間の半ばで1週間の休暇があることから、実質研修期間は13週間になる

2) 1項目5分程度のトレーニング3～4項目を毎時間の始めに繰り返す少しずつ行うことによって語彙などの定着をはかる練習を「毎時の練習」と呼んでいる

3) 新しいことを学ぶ(記録)に最も重要な部分は、脳の感情中枢のなかにあるので、感情が昂揚していたほうがものが覚えやすいといわれている

参考文献

- ・植村研一(1995)「脳を活性化させる外国語教育」月刊『言語』7月号
大修館書店
- ・品川嘉也、池田和子(1991)「右脳^①が英語 英語は右脳ですぐ話せる」
青春出版社

[資料1]

カタカナえ単語1

① ライオン ライオン
ライオン ライオン
ライオン ライオン
ライオン ライオン

② ゴリラ ゴリラ ゴリラ
ゴリラ ゴリラ
ゴリラ ゴリラ
ゴリラ ゴリラ

③ パンダ パンダ パンダ
パンダ パンダ
パンダ パンダ
パンダ パンダ

④ キリン キリン
キリン
キリン
キリン

⑤ カンガルー カンガルー
カンガルー
カンガルー
カンガルー

[資料2]

カタカナ絵単語2

ペンギン/カバ/コアラ/ラクダ/ゾウ

1ペンギン/カバ/コアラ/ラクダ/ゾウ

2ペンギン/カバ/コアラ/ラクダ/ゾウ

3ペンギン/カバ/コアラ/ラクダ/ゾウ

4ペンギン/カバ/コアラ/ラクダ/ゾウ

5ペンギン/カバ/コアラ/ラクダ/ゾウ

6ペンギン/カバ/コアラ/ラクダ/ゾウ

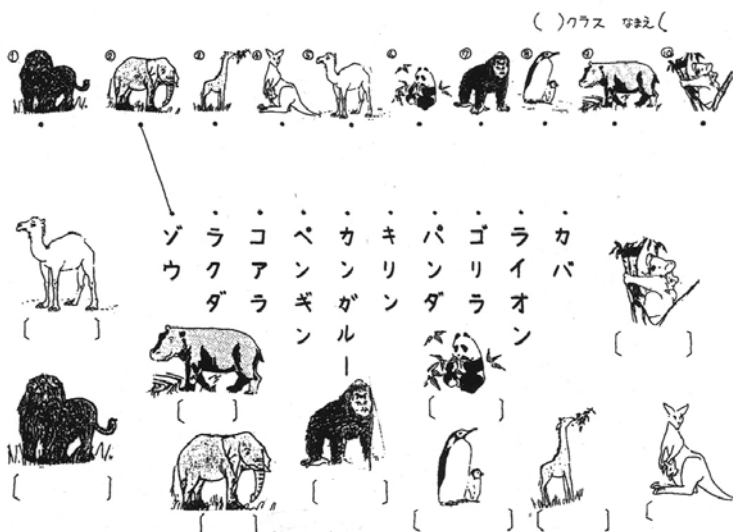
7ペンギン/カバ/コアラ/ラクダ/ゾウ

8ペンギン/カバ/コアラ/ラクダ/ゾウ

9ペンギン/カバ/コアラ/ラクダ/ゾウ

10ペンギン/カバ/コアラ/ラクダ/ゾウ

[資料3]



[資料4]

(1)

カ . . き	コ . . あ
ラ . . そ	ウ . . く
ゴ . . は	ア . . う
パ . . か	ク . . お
キ . . ペ	イ . . こ
ゾ . . ら	オ . . り
ペ . . こ	リ . . い

[資料5]

文字の練習
1. 下辺の五十字、老師先記每个字念何次、然後大家跟着念、练习发音。

① ア イ ウ エ オ

2. 把上边的字样、好好看看、每个字练习三遍、把字记住。

3. 把老師念的字、写出来。

①	●	●	●	●
●	●	●	●	●
●	●	●	●	●
●	●	●	●	●